



左右の視線がそろっていない状態を斜視といいます。視線が内側にずれる内斜視、外側にずれる外斜視、上または下にずれる上下斜視などがあります。

徳島大学病院眼科

四宮加容・副診療科長



斜視の治療、0歳から可能

斜視になると、両目で同時に一つのものを見ることができず、対象を立体的にとらえたり、遠近感を把握したりする両眼視機能が使えません。また複視といって一つのものが二つに見える症状が出ることもあります。例えば車道の

センターラインが2本に見えたり、1人の人間が2人に見えるたりして生活に支障が出てきます。眼科では、斜視の患者さんが受診されると、斜視の種類や原因を調べて、それに応じた治療を行います。斜視の原

場合は、斜視手術やプリズム眼鏡の処方を行います。手術は、外眼筋の位置を付け替えて、筋肉の効果を弱めたり強めたりします。斜視の角度によって外眼筋の位置を単位で設定します。子供は全身麻酔、大人は局所麻酔で手術を

ボツリヌス毒素を外眼筋に注射する治療法もあります。小さいお子さんは斜視があると両眼視機能や視力が正常に発達しないことがあります。両眼視機能は2歳まで、視力は6歳までが特に重要な時期です。常に大角度の斜視

因は、屈折異常(例えば遠視による内斜視)、視力障害、目を動かす筋肉(外眼筋)の異常、脳や神経の異常などがあります。原因不明ということもよくあります。特に原因がない場合や原因治療を行っても斜視が残った

行つことが多いです。複視があるお子さんは0歳でも手術治療を行います。斜視の治療に年齢制限はありませんから、高齢の方でも希望法を取ることがあります。プリズム眼鏡は視線のずれを矯正するための眼鏡で、小角度のずれに有効です。最近では

があるお子さんは0歳でも手術治療を行います。斜視の治療に年齢制限はありませんから、高齢の方でも希望法を取ることがあります。プリズム眼鏡は視線のずれを矯正するための眼鏡で、小角度のずれに有効です。最近では